



日本女医学会誌

復刊第 182 号
2005 年 4 月 25 日発行
題字 吉岡彌生

巻頭言

女医会の持続可能な発展を目指して

副会長 加藤 竺子

日本列島の今年の冬は3月になっても異常気象で、北海道、青森や新潟など豪雪のニュースに現地の皆様は大変だったこととお見舞い申し上げます。九州でも、3月になって小雪が舞ったり、寒い冬空に春の訪れが待たれる日々でした。

さて振り返ってみますと、この2～3年は歴史ある日本女医会にとって大きな仕事を抱え、大変忙しい日々でした。それも何とかやり遂げ、有意義な実績を歴史に残せたのではなかったか、と思います。

2002年5月には社団法人日本女医会設立100周年記念の一連の行事を盛大に厳かに挙行することが出来ました。記念式典には皇后陛下のご臨席を仰ぎ、すばらしいお言葉を賜りましたことは、日本の女性医師の活動の歴史と社会的貢献に対するお励ましのお心を感じ、女医会会員としての誇りを覚え感動致

しました。

会としては、引き続き2004年7月に予定の第26回国際女医会議を何としても成功させねばと、企画・財源・運営など準備に忙しい日々でした。何しろ28年ぶりの国際会議であり、テロやイラク問題など国際情勢も不穏で、国内の経済不況、東京の夏の異常な暑さ等々いくつかの不安材料を抱えての準備期間でした。

会長をはじめ理事会・ナショナルコーディネーターを中心に、7月28日～8月1日まで無事有意義に、心に残る一連の会議を済ますことが出来ましたこと、女医会会員の皆様のご協力とエネルギーに心から感謝致します。

大きな2つのイベントを無事終えて、さて、これからの目標はと考えるとき、この歴史ある女医会をいかに持続可能な発展につなげていくことができるか、そのために今、私達は何をしなければならないか、このことはとても緊急かつ大切な課題と考えます。

社団法人日本女医会の定款を見ると、会の目的として、【医学に関する調査研究、医療の普及及び公衆衛生の向上並びに女医相互の啓発及び親睦を図り、もって女医の社会的使命の遂行と国民福祉の増進に寄与する事を目的とする】とあります。

日本女医学会誌 (第182号) もくじ

巻頭言●女医会の持続可能な発展を目指して……………	日本女医会第8回ブロック別懇談会……………	古賀詔子 /10
…………… 加藤 竺子 /1	ブロック別懇談会を「非日常の世界」の京都で ……	
『「十代の性と健康」指導者養成講座第9回～性教育の原点を考える』……………	…………… 石川知子 /11	
…………… 早乙女智子 /2・坂東真理子 /3・我妻 堯 /4	ニーズ多様化で変貌する医療人教育への想い……………	
日本女医会公開講座“「十代の生と性と死」を考える”	…………… 水田祥代 /12	
を開催して…………… 内坂由美子 /5	お求め下さい！…………… /12	
書評●『静観』…………… 角田由美子 /6	追悼 小野春生先生を偲ぶ…………… 山崎倫子 /14	
働く女性のための育児環境整備支援事業研修会……………	支部だより…………… 中野慧子 /14	
…………… 野原理子 /7	ご案内●第50回 日本女医会総会…………… /15	
新潟中越地震義援金寄付者一覧〈第2報〉…………… /8	会員動静…………… /15	
第8回国際女医会西太平洋地域会議への参加募集 …… /8	理事会議事録…………… /16	
第15回日本・ヨルダン・エジプト・パレスチナ女性交流	吉岡弥生賞 / 荻野吟子賞 推せんについて …… /18	
—Closed Session…………… 平敷淳子 /9	地域医療奉仕活動に対する助成のご案内…………… /18	
平成17年度「児童福祉週間」協力のおしらせ…………… /10	第27回学術研究助成のご案内…………… /18	
	編集後記…………… /18	

もちろん、従来から法人としての使命を遂行するために、いくつかの事業を実施してきましたが、今後とも社会のニーズに即した女医会としての活動が期待されるわけです。こうした事業を推進するためにもその財源の確保と人材が不可欠です。医師国家試験の合格率が既に女性が30数%を越すという現状にもかかわらず、女医会の会員数は減少の一途をたどり、若い会員の入会が少ないということは問題の一つだと思います。男女共同参画社会時代に、「なぜ女医会にこだわるのか?」という意見もあると思います。

いずれにしても女医会の魅力、メリットが大事な要因だと思います。時間的余裕がないとか、色々あると思いますが、“されど、女医会”、100年の歴史を持つ女医会が女性医師のルーツとして、持続可能な発展を続けるための方策を確立しなければと思います。ぜひ会員をはじめ関心のある方々の広いご意見を頂き、新しい時代に即した女医会改革へ取り組んでいきたいと思っています。5月の総会ではご意見を伺う機会も計画しておりますので、建設的かつ活潑なご意見をご期待いたします。

「十代の性と健康」

指導者養成講座第9回

～性教育の原点を考える～

2005.1.16



**当たり前でいて
なかなかできないことを進めていく**

神奈川支部 **早乙女智子**

日本女医会の「健やか親子21」関連事業として始まったこの会も、9回目を迎えました。性教育、性、ということ女医会で扱うのはどうか、という意見もある中で、今や女医会がやらねばどこがやる、という雰囲気になってきたような質の高い会が毎回開催されています。様々な科のドクターが集まっている女医会だからこそ、情報を共有して、時代とともに変遷する問題にそれぞれの立場で対応していくことができるのではないだろうかと思われました。

この日は生憎のお天気で、雪こそ降らなかったものの、大変冷える雨の日にも関わらず、ほぼ申し込み通りの約100名の参加があり、ディスカッションも大いに盛り上がりしました。

午前中、坂東真理子先生は、「男女共同参画」という言葉を生み出し、総理府で辛抱強く男女のあり方を推進してこられた方で、行政の立場からみた男女共同参画社会への道程を紐解いて下さいました。また我妻堯先生は、医学の立場からリプロダクティブヘルスの歴史を解説され、ライツ（権利）がクローズアップされがちですが、もともとはヘルス（健康）の提案だったことを話して下さいました。

午後は、早乙女が司会をさせていただきました。対馬ルリ子先生から女医会のこの3年間の事業成果の報告がありました。それまで関心なかった医師が、保護者や学校現場との連携を取ったり、相談窓口を設けるなど、この養成講座をきっかけに新たな行動を起こして下さっており、会員の先生方の意欲に感激しました。

池上清子先生は、国連人口基金（UNFPA）東京事務所長で、長年海外援助に関わってこられ、オランダでの知見を報告されました。自立するための教育が各方面からなされている国、オランダと日本とは土台が違うということを感じました。特に、テレビで普通に流れているというHIV予防のスポットCMの映写には、美しさとウイットに富んだ仕上がりに会場からため息が漏れるほどでした。日本では到底流れないようなCMです。

次の演者の家坂清子先生も、あの後では話しにくかった、とおっしゃりながらも、普段の豊富な臨床経験と講演に裏打ちされた話術で、性教育の基本を明解にお示し下さり、実際の性教育のいかなる現場でも役立つノウハウを教えてくださいました。それぞれ、関連がなさそうである、午前中の基調講演と同様、大事な根っこのところでテーマである「人権と健康」にきちんとリンクしていたので、お聞きになった会場の方はすっかりとした気持ちでお帰りいただけたのではないのでしょうか。

ディスカッションのところでは、具体的な方法としての避妊や性感染症予防の議論には至りませんでした。教えないことや禁止するということの無意味さに関して一致した見解が示せたと思います。選択できる子どもを育てる、大人が正しい知識を得る、という当たり前でいてなかなかできないことを進め

ていくこと、これは他の健康教育にも当てはまるのかも知れません。今後も会員の皆様のご理解、ご協力で、さらに息長い活動となることを祈っています。

リプロダクティヴライツと 男女共同参画政策

昭和女子大学大学院教授 坂東眞理子

1975年の国際婦人年、第1回の国連婦人会議を機に日本政府は内閣総理大臣を本部長とする婦人問題企画推進本部を設置し、総理府に婦人問題担当室が置かれた。そこで、性別役割分担意識の見直し、女性の政策決定への参加などを目標とした国内行動計画が策定された。その後、国連の「婦人の10年」(1977年)、女子差別撤廃条約の採択(1979年)、80、85年の国際婦人会議等の機運を受けて、国内では雇用機会均等法が成立した。

また、1989年の1.57ショックを機に出生率の低下に関心が集まり、1991年には育児休業法も制定された。

そのころまで、専門家の間では使われていた「リ

プロダクティヴライツ」という言葉は、政府の文書の中ではほとんど使われなかった。家族計画、周産期死亡率の低下対策などは母子保健関係施策の中で推進されてきた。性教育も、文部省の所管で保健科の一部と男女交際(純潔教育)の一環として教えられてきた。

しかし、リプロダクティヴライツは1994年のカイロ人口開発会議、1995年北京の第4回世界女性会議で大きく取り上げられ、その流れを受けて、女性に対する暴力の根絶とともに女性の人権のひとつとしての認識が高まった。1999年に成立した男女共同参画社会基本法では、基本的目標のひとつに男女の人権の尊重をあげている。

男女共同参画基本法を受けて2000年に策定された男女共同参画基本計画では、11の施策の基本的方向をあげているが、その中では「女性の心身の健康の尊重」がリプロダクティヴライツに対応している。「女性に対する暴力の根絶」については配偶者暴力防止法(2001年制定、2004年改正)、児童買春、児童ポルノ禁止法などで大きく進展したが、「女性の心身の健康」の分野では、性差医療などの進展はあったが、リプロダクティヴライツについては目立

日研化学の 呼吸器・アレルギー 疾患治療薬

キサンチン系気管支拡張剤
テオドル® G20%錠50mg・100mg・200mg
THEODUR® Granules 20%, Tablets 50mg, 100mg, 200mg (テオフィリン徐放性製剤)
[薬業・指定医薬品: テオドルG20% (0.5g分包品を除く), 錠200mg] [薬価基準収載]

キサンチン系気管支拡張剤
**テオドル® シロップ2%
ドライシロップ20%**
THEODUR® Syrup 2%, Dry Syrup 20% (テオフィリン徐放性製剤)
[薬業・指定医薬品(テオドルドライシロップ20% 0.4g分包品を除く)] [薬価基準収載]

アレルギー性疾患治療剤
アレギサル®錠5mg・10mg
ALEGYSAL® tablets, dry syrup (ヘミロスタカリウム製剤)
[指定医薬品] [薬価基準収載]

閉塞性気道疾患用剤
**ベラチン® 錠
ドライシロップ**
BERACHIN® tablets, dry syrup (塩酸ソプロテロール製剤)
[指定医薬品] [薬価基準収載]

※〈禁忌〉〈効能・効果〉〈用法・用量〉〈使用上の注意〉等の詳細については、製品添付文書をご参照ください。



販売元(資料請求先)

日研化学株式会社
東京都中央区築地1-12-6



製造元

三菱ウェルファーマ株式会社
大阪市中央区平野町2-6-9

2003年10月作成

った施策はとられていない。

一方、2001年ごろから地方自治体で男女共同参画条例の制定が進む中で、ジェンダーフリーは女らしさの否定、リプロダクティブライツは中絶の自由につながると批判する悪意あるバックラッシュの動きが出てきた。2002年には山谷えり子議員が国会質問で「基本のき」や、「ラブアンドボディ」を取り上げ、男女共同参画行政の行きすぎを批判した。

ブッシュ政権の保守的な傾向とあわせ、世界的にもリプロダクティブライツについては厳しい環境にあるが、専門家としての医療関係者の発言と行動に期待したい。

1975年	国際婦人年、第1回国連婦人年世界会議
1977年	国連「婦人の10年」
1979年	女子差別撤廃条約の採択
1980年	第2回国際婦人会議（コペンハーゲン）
1985年	第3回国際婦人会議（ナイロビ）
1985年	雇用機会均等法成立
1989年	1.57ショック
1991年	育児休業法制定
1994年	カイロ人口開発会議
1995年	第4回世界女性会議（北京）
1999年	男女共同参画社会基本法
2000年	男女共同参画基本計画
2001年	配偶者暴力防止法制定（2004年改正） 児童買春、児童ポルノ禁止法
2001年ごろ	地方自治体で男女共同参画条例の制定が進む
2002年	山谷えり子議員が国会質問で男女共同参画行政の行きすぎを批判

リプロダクティブヘルスの歴史

元国立国際医療センター局長 産婦人科医 我妻 堯

1. リプロダクティブヘルスの前史

1950年代後半から1960年代前半にかけて、有識者の間で地球上人口の急激な増加への関心と対策が注目されるようになった。当時開始された人口増加抑制策、その手段である家族計画・受胎調節普及運動は、リプロダクティブヘルスの前史ということができよう。すなわち、1960年には30億であった世界人口は1972年には40億となり、1990年代にはさらに倍増すると推定された。地球上の様々な資源、特に食糧、エネルギー、水などには限りがあり、このまま人口増加を放置すれば、重大な問題が発生すると憂慮された。特に、先進工業国の人口増加に比して発展途上国のそれは著しく、途上国援助の限界

も問題になった。対策としては、避妊技術の開発・指導などによる初産年齢の引き上げ、出産間隔をあけて産む子供の数の適切化などの家族計画思想の普及が重視された。これは、同時に母親と生まれてくる子どもの健康・福祉を向上させる母子保健活動であり、この概念や活動が年月の経過とともに拡大され、普及の努力がなされたのがリプロダクティブヘルスである。

2. 人口問題と母子保健活動の援助と協力

多くの先進工業国が、途上国援助のプログラムの中に人口問題対策や母子保健の向上を含めるようになり、国際家族計画連盟、国連、世界保健機関（WHO）などの国際機関も積極的にこの問題に取り組むこととなった。WHOの場合は、1950年代には人口抑制という考え方に対して反対意見が強かったが、1960年代に入ってから、リプロダクションの特別研究計画が設置した（筆者は通算18年余にわたってこれに関わった）。研究の内容は、当時世界各国で使用が始まった経口避妊薬や子宮内避妊器具、その他のホルモン長期投与方法、免疫学的避妊法、経口中絶薬などの効果、安全性、副作用、人々への受け入れられやすさなどの全世界的疫学研究で、中国などの発展途上国の研究所の指導なども行われた。

3. リプロダクティブヘルスの概念の始まり

WHOは「健康とは単に病気にかかっていない、病的状態が存在しないというだけではなく、身体的・精神的・社会的観点から見て完全に良好な状態（Well-being）をいう」と定義している。1988年に上記の特別計画のDirectorであったDr.Fathallaは、この定義をリプロダクションの分野に拡大してリプロダクティブヘルスと名付けた。即ち

- 1) 人々は子どもを持つことが可能であると同時に自分達自身の妊孕性を調節出来なければならない
- 2) 女性は安全に妊娠・出産を経験できなければならない
- 3) 妊娠・出産は母児の生命・健康にとって安全でなければならない
- 4) 全ての男女は望まない妊娠や病気に罹る恐れなしに性的関係を持つことが出来なければならない

以上がその定義であり、この概念はさらに「女性の健康・福祉、社会における地位の向上などを含む」と拡大され、1994年にカイロで開催された「人口

と開発に関する国際会議」に提案されて、わが国にも輸入された。

しかし、わが国では未だにこの概念が正しく理解されたとは言い難い。すなわち若年女性の性行動が活発化し、性感染症や望まない妊娠なども増加していますが、性教育への反対論も根強く、ピル認可の甚だしい遅れ、新しいIUD*認可の遅れなど、女性にとっては選択肢が限られており、経口中絶薬なども入手できない。真のリプロダクティブヘルスの概念とその実施普及に関係者の一層の努力が望まれる。

* IUD (Intra Uterin Device ; 子宮内避妊器具)



日本女医会公開講座

“「十代の生と性と死」を考える”
を開催して 2005.1.23

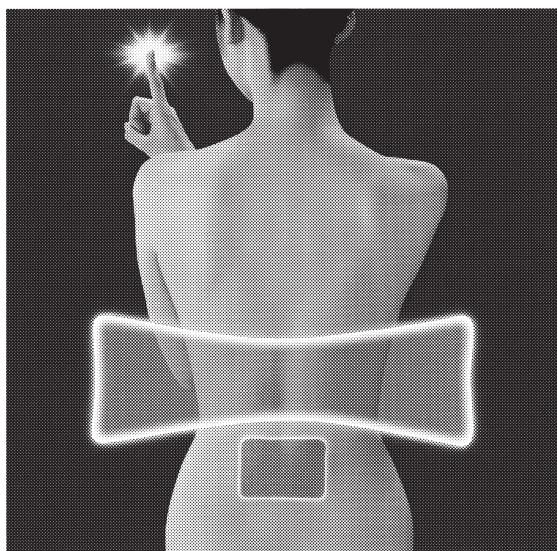
命に対する尊厳を学び、
自己決定できる大人へ

長野支部 内坂由美子

昨年度「十代の性と健康」指導者養成講座を長野支部で開催させていただきましたが、その後のアンケートからこの問題の重要性のため、引き続いての開催を期待されていました。そこで今年度1月23日(日)に、表題の市民講座を開催させていただき、現場の声に添えていく一歩となりました。当日は遠路、橋本葉子女医会会長、山崎トヨ理事にも出席していただき、150名以上の盛会となりました。

精神科医として思春期の問題に長く関わってこられてた小林正信さん(虹の村診療所長、信州大学医学部講師)は、思春期の只中にある青年たちの姿に彼自身の体験を重ね合わせつつ、人間が成長し自立していく過程の中でコミュニケーションについて、

MOHRUS
TAPPE



Hisamitsu

指定医薬品

経皮鎮痛消炎剤 ケトプロフェン貼付剤 (薬価基準収載)

モーラステープ®

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。

資料請求先

2005年2月作成



久光製薬株式会社 学術部

〒100-6221 東京都千代田区丸の内1-11-1

その基礎として、10代のはじめの少人数グループでの対人関係形式の重要さにふれました。その基礎のないまま、10代後半の複雑な人間関係の中で、とまどい苦しむ若者の姿を通して、生と死の意味を問いかけました。

昨年に引き続いて講師をお願いした東海第三高校の竹内未希代さんは「生きる力と性」と題し、講演されました。「かつてセックスと子どもを産むこと、育てることはセットだったが今は別」と指摘。「自分は大切な存在なんだ」という自尊感情が自分や他人の心身や性を尊重する態度につながる」と訴え、コミュニケーションの形成と、それと相反する「自分を守る」という2つの間で揺れ動きながら愛と信頼を育てていく人間の姿にふれました。

「分かる言葉で伝えたい～ピアカウンセラーの現場から～」と題して、信州大や清泉女子大の学生らは、高校生の悩みに同世代の仲間として相談のついでにピアカウンセラーの実践例を、寸劇を通じて分かりやすく会場へ伝えました。

コメンテーターの川田龍平さんは、自身の薬害エイズの体験を抱えつつ、性感染症としてのエイズに関わるようになった心境と、苦しみながら自己を確立していく中で社会とのかかわりの重要性にふれ、奇しくも“コミュニケーション”と“自尊感情”の性に果たす役割の重要性に言及する会となりました。

その後、3分科会に分かれ、話し合いを持つことを今回は行い、親密な話し合いの中で、“自分の子どものこと”“生徒のこと”“患者のこと”ではなく、自分自身のセクシュアリティを問われていると感じるに至りました。

先日、NHKのテレビ討論の中で小学生の子どもたちに「人間は死んでもまたすぐ生き返ると信じているか」という質問に対して、実に70%を超える子どもたちが「YES」と答えました。

生まれた時からテレビやゲームの世界、パソコン、携帯電話による写真といったVirtual reality（仮想空間）の中で育ってきた子どもたちは、どこまでが現実で、どこからが作られた虚像の世界であるかを判断する力を喪失しています。

命の重さ、命の大切さに対する感性の喪失は十代の性行動にも反映されており、十代の性感染は急増し、HIV感染も急ピッチで増加傾向にあります。十代の妊娠に続いて中絶ももちろん増加し、大切な幼子の命が失われています。

不適切な性情報の氾濫の中で、性行動とは何かを認識し、いかに子どもたちへの豊かな生と性に関す

る健康教育に取り組んでいくべきか、共に学びたいと考えます。

そして子どもたちが、命に対する尊厳を深く学び、責任を持って自己決定できる大人へと成長できるように支援したいと考え、今後もこのような会の存続を長野で続けていけたらと願っています。

参加して下さった皆様、講師の先生方、ボランティアの方々、ありがとうございました。

末筆となりましたが、日本女医会からの多額のご援助、長野県及び長野県教育委員会、長野いのちの電話、「チャイルドラインながの」の後援をこころより感謝致します。

書評

静観

金田八重子著（青森支部会員）



理事 角田由美子

著者の二冊目の本である。前著書は「女先生のひとりごと」と題して15年前に出版された。ウィットに富んだ文章の数々に、心が癒されたものだが、今回も著者のますます円熟した温かい人柄が、エピソードのあちこちに見られて、楽しく読ませていただいた。文章もなめらかで読みやすい。

医学を志して大学に学び、大学病院で耳鼻咽喉科医としての研鑽を積まれた時代の事、又、地域にあってはソロプチミストの支部長として活躍されたこと、女医会活動や各種の勉強会での思い出等々、著者の語り口はさわやかで、面目躍如たるものがある。

入局した頃の頃、何かと男性医師たちのからかいの対象になった事や、クーラーのない時代の過酷な聴力検査の思い出等、まさしく同時代の耳鼻科医として同じ道を歩いて来た私にとっては、共通する思いが数々あり、それらをスパッと言いきって下さって、「ソーソーソーナノヨ。よく書いて下さった」と共感することしきりである。

著者とは4年前のシドニーでの国際会議に同行して知己を得た。波長の合う人である。

（本書に関するお問い合わせは事務局まで）

**働く女性のための
育児環境整備支援事業研修会
「病児保育の現状と展望」**

2005.2.20

**育児環境整備支援事業に対する
期待と必要性を実感**

東女医学内支部 **野原理子**

日本女医会で2004年度より行っている、「働く女性のための育児環境整備支援事業」の一つとして2005年2月20日（日）に、働く女性のための育児環境整備支援事業研修会が港区芝の女性と仕事の未来館ホールにて、日本保育園保健協議会、全国病児保育協議会のご協力を得て開催されました。またこの事業は、独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）の平成16年度助成金を受けております。開催が2月ということで天候が心配されましたが、当日は寒さも和らぎ、事前登録を上回る150名以上の来場者を迎え、大変盛況な研修会となりました。

研修会ではまず「病児保育の現状と課題」と題して、全国病児保育協議会顧問の帆足英一先生よりお話いただきました。全国の病（後）児保育室の設置数や設置形態、人員配置などの現状から、「保育看護」の専門性の確保、設置形態（医療機関併設型か保育所併設型か）による受入対象児（急性期の受入）の問題、受け入れ児の病状変化時の対応、さらに補助金を含めた財政的な問題にいたるまで、病児・病後児保育の課題と問題点をご説明いただきました。

次に「病児保育の現場から」と題して、全国病児保育協議会副会長・ほけっと病児保育室の宮田章子先生にご講演いただきました。宮田先生は1997年にご自身の小児科医院に病児保育室を併設され、現在立川市の委託を受けて病児保育室を運営していらっ



週刊英文経済紙—日経情報まるごと英語で!
THE NIKKEI WEEKLY
経済を英語で。読み、聴き、学べる新聞です。

4月1日から6月30日までキャリア・アップキャンペーン中!

上昇思考◎

未来をめざすビジネスパーソンにとって経済と英語は必須。
ビジネス界で働く以上、この2つは一生ついてまわります。
そこで、経済と英語を同時に学べるTHE NIKKEI WEEKLYがおすすめ。
上昇志向から、具体的な上昇思考へ。
経済+英語=自己収益率の向上。

★サンプル請求&お申し込みは...
☎0120-630-444 (平日9:30~17:30)
www.nikkei4946.com/sb/i1/

●毎週月曜日発行 ●日経4紙(日経、産業、MJ、金融)のニュースを厳選
●主要記事の解説番組をラジオNIKKEIとネット(オンデマンド)で放送中 ●バックアップツールを購読者にプレゼント!

“Talking Business in Japan? THE NIKKEI WEEKLY speaks your language”

日本経済新聞社 販売局国際販売部 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-9-5

しゃいます。講演では、先生が運営されている病児保育室について、お部屋の見取り図や利用されているお子さんの特徴（利用日数・年齢・疾患）、また年間稼働率や、利用登録から実際の利用までの手順について等をご紹介します。さらに病児保育室で保育看護を行う上での配慮や感染症対策に触れられ、主役は子ども、子どものための病児保育であることを、実際に病児保育に携わっている現場の声として最後に強調されてお話をまとめられました。

続いて野原が、今年度日本女医会の「働く女性のための育児環境整備支援事業」の一環として行った病児保育アンケート調査について報告いたしました。調査結果として、①調査が一般保育園と病（後）児保育室及びそれぞれの利用者に対して行われ、回収率が高く、全国から回答が寄せられたこと、②利用者調査から、保護者が仕事を休めないために病（後）児保育を利用せざるを得ない現状や、子どもが病気のときは保護者自身で看病してあげたいと考えていることが明らかとなったこと、③病（後）児保育利用経験者は非常に満足度が高く、施設は財政的に厳しい状況での運営でありながら、子どもにとって良い環境を築く努力をしていることが推測され

たこと、④全ての調査において、保護者の看護・介護休暇を求める声が高くその必要性が明確となったこと等を報告いたしました。

研修会の最後に行われた総合討論では、それぞれの講演者に対して病（後）児保育を行っている来場者の方や病児保育の研究をしていらっしゃる学生の方等から、多くの意見や質問が出され、また、一般の保育園で行われている与薬の現状や取り扱いについてなど活発な討論が繰り広げられました。

今回の研修会で、育児環境整備支援事業に対する期待と必要性を強く感じ、本事業は来年度も引き続き行われることになっていることから、来年度はさらに活発で充実した研修会や講演会が開催できるよう努力していこうと決意を新たにいたしました。

新潟県中越地震義援金寄付者一覧【第2報】	
市川公子	(千葉)
川南サチ	(北海道)
辻田ミヨ	(福岡)
保田正子	(山口)
山下克子	(学内)
和田一恵	(千葉)
鳥海千枝子	(練馬)

第8回 国際女医会西太平洋地域会議への参加募集

本年11月、以下の期間に、マニラ市で第8回国際女医会西太平洋地域会議がCifra HL会長のもとで開催されます。皆様ふるってご参加ください。申し込みは日本女医会事務局まで。往復交通費とホテル代、登録費をすべて込みで、お世話申し上げます。

日本からの参加申し込みの締め切りは8月10日（水）です。ファックスでお知らせください。折り返し、登録用の用紙をファックス申し上げます。日本女医会のファックス番号は03-3498-8769です。

記

会 議 名：第8回国際女医会西太平洋地域会議

期 間：2005（平成17）年11月10日（金）～12日（日）

場 所：フィリピン・マニラ市「マニラホテル」内

メインテーマ：Golden Health Care Towards The Silvering Years

トピックス：7つのテーマをかがけております。

- ①周産期の問題、②子どもの健康、③思春期年代の育て方、
- ④女性の健康について、⑤長寿に向けての生活はどうあるべきか、
- ⑥妊婦の健康、⑦高齢者時代

登 録 費：日本女医会会員 250米ドル

非会員 300米ドル

随伴者1名につき100米ドル

ホ テ ル：会場であるマニラホテルを予約することにしております。

シングルルーム100米ドル、ダブルルーム120米ドル

(ナショナルコーディネーター 内湯安子)

第15回

**日本・ヨルダン・エジプト・パレスチナ
女性交流 - Closed Session**

2005.2.14

「母乳は安全？」から鳥インフルエンザまで

理事 **平敷淳子**

今回の中東女性交流は、2月12日から20日まで日本汎太平洋東南アジア婦人協会（Pan-Pacific and South-East Asia Women's Association of Japan : PPSEAWA / 井上バックス幸子会長）が幹事団体となり開かれました。そして2月14日には「女性と環境」をテーマに各国が抱える環境問題の最大の課題と女性の関わりにつき closed session が開かれました。メンバーの多くが、津田塾大学のご出身であるところから、会場は同大学同窓会会議室（千駄ヶ谷）で行われました。

ヨルダンからは環境省大臣技術スタッフ長のルブナ・ハタートネさんが産業排水集中処理について話

されました。手をつけたばかりという状況で、海のないヨルダンが川に排水を流している状況をなんとかしなくてはと、国をあげて努力している様子がうかがえました。

エジプトのユースレヤ・ナシフ・ローザさんは、名前のごとく大輪のバラのように元気一杯、ご専門のゴミ処理の取り組みを熱く語られました。彼女は国家母子評議会技術指導専門委員で、環境保護協会に属し、ゴミとともに30年。さらに女性のスタッフを大勢指導しているお姿が目につかぶようでした。

パレスチナのハヤ・ヘラルさんはパレスチナ・ワイルドライフ協会渉外担当で、渡り鳥の生態系にとってパレスチナが重要な地理的条件にあることを美しい自然のスライドとともに語られました。



Power of Bioregulation

胃炎・胃潰瘍治療剤

ムコスタ® 錠100 顆粒20%

Mucosta® レバミピド製剤

製造販売元 **大塚製薬株式会社**
東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先 **大塚製薬株式会社**
信頼性保証本部 医薬情報センター
〒101-8535 東京都千代田区神田司町2-2
大塚製薬 神田第2ビル

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】及び【用法・用量】

【効能・効果】	【用法・用量】
胃潰瘍	通常、成人には1回レバミピドとして100mg(ムコスタ錠100:1錠、ムコスタ顆粒20%:0.5g)を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期	通常、成人には1回レバミピドとして100mg(ムコスタ錠100:1錠、ムコスタ顆粒20%:0.5g)を1日3回経口投与する。

【使用上の注意】一抜粋—
副作用
調査症例10,047例中54例(0.54%)に臨床検査値の異常を含む副作用が認められている。このうち65歳以上の高齢者3,035例では18例(0.59%)に副作用がみられた。副作用発現率、副作用の種類においても高齢者と非高齢者で差は認められなかった。(ムコスタ錠100の承認時及び再審査終了時)
以下の副作用には別途市販後に報告された自発報告を含む。
重大な副作用
1. ショック、アナフィラキシー様症状(頻度不明*)：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 白血球減少(0.1%未満)、血小板減少(頻度不明*)：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
3. 肝機能障害(0.1%未満)、黄疸(頻度不明*)：AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、ALPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
*：自発報告において認められた副作用のため頻度不明。
◇その他の使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

日本からは国際協力銀行プロジェクト開発部技術顧問の鹿野和子さんが、環境型社会における女性の役割を山形県におけるゴミの処理方法につき、実演とともに講演されました。

各国共に2名ずつの参加で、発表の後には全員参加の討論がありました。環境問題は広く、すべての事項が環境問題とつながっており、「母乳は安全か？」から鳥インフルエンザにいたるまで、広範な討論が繰り広げられました。

参加者は小池環境庁長官とアラビア語で会見をしました。また多摩ニュータウンゴミ処理センターという大規模なゴミ処理場の見学、大阪での公開シンポジウムなど、きわめて精力的な代表団とお見受けしました。

その間に会員の方のご自宅へのご招待、外務省主催の歓迎会や親睦のためのパーティの参加など素晴らしい計画で、この場をおかりしてPPSEAWAの皆さまに感謝いたします。

厚生労働省より

平成17年度「児童福祉週間」協力のおしらせ

厚生労働省では毎年5月5日より一週間を「児童福祉週間」と定めて、この期間中に広く関係機関・団体の協力により、全国各地で児童福祉の推進のための各種の啓発事業および行事が展開されております。

についてはこの啓発活動についてより多くの理解と協力をお願い致します。

●平成17年度「児童福祉週間」概要●

1. 趣旨

国および地方公共団体、家族、福祉関係機関、児童福祉施設、地域社会等社会全体が一体となって、各種の啓発事業及び行事を展開することにより、児童福祉の理念の一層の周知と児童問題に対する社会的関心の喚起を図る。

2. 主唱

厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会、(財)こども未来財団

3. 標語

ちがうみんな ちがう夢 おんなじ大きな未来
(公募により選定された作品)

4. 期間

平成17年5月5日(木)より5月11日(水)までの一週間

日本女医会 第8回ブロック別懇談会

理事 古賀詔子

日本女医会ブロック別懇談会は支部会員や近隣女性医師の声を直接お聞きし、加えて減少する会員増強も考慮し、第8回の開催を迎えることが出来ました。

出席者は京都支部会員13名、近隣支部会員2名、会員外6名の計21名でした。会長が挨拶を兼ねて、本会の事業内容や現在抱えている問題を配布資料に基づき説明を行いました。この資料は大変に好評でした。出席者の紹介に続いて、来る5月20日～22日に名古屋市に於いて開催されます第50回定時総会のご案内を行いました。次に鹿田庶務担当副会長が司会をして、出席者全員からご意見を頂きました。以下にその要点をまとめてみました。

- 日本女医会の存在をアピールする広報をもっと幅広く行ってほしい。
- 以前に京都で開催された国際女医会西太平洋地域会議の印象が大変良かった。
- 育児支援と高齢化の問題も女性医師の視点で日本女医会の業務としてお願いしたい。
- 今後、若い先生方の会費をもっと安くしてはどうか。

など、いずれも貴重なご意見でした。石原副会長は以上のご意見を受けまして、閉会の挨拶の中で次のようにお話しされました。

- 日本女医会の広報活動に今後も力を入れるように努力する。
- 平成13年から3年間、独立行政法人・福祉医療機構「子育て支援基金」の助成により「健やか親子21」関連事業として「十代の性と健康 指導者養成講座」を開催してきた。平成16年からは、同じく「子育て支援基金」の助成を受け、働く女性のための育児環境整備支援事業を行い、2月20日には研修会も開催した。
- 新卒会員の会費は現在1年間のみ8千円になっているが、今後さらに検討の余地がある。

この稿をまとめるにあたりまして、出席者と理事とが十分に討論する時間がなかったことは残念に思いましたが、ご支援頂いた京都支部長石川先生、副支部長仁科先生に深謝致す次第です。ありがとうございました。

ブロック別懇談会を 「非日常の世界」の京都で

京都支部 石川知子



ブロック別懇談会にて

吹き荒れる寒波で、列島中雪に包まれ、3月5日(土)の夕方に、「遅れないように新幹線が動くといいわね」との声の便りがありました。深まる夜とともに気候も和らぎました。

ブロック別懇談会の前夜は宿泊者と京都支部の石川、仁科の2名を含めた総勢12名で、文明開化の明治に創業したすきやき屋の草分け的存在の三嶋亭に集まりました。

ほのかな匂い香る可愛らしい舞妓と、艶っぽい髪を結って着物の裾を引く芸妓の「祇園小唄」の三味線が始まり、目にも鮮やかな「霜降り」の肉と京都近郊でとれる野菜に舌鼓を打って、古きよきものが残る京のよさを味わって頂きました。

雪が降り積もるという天気予報の雪だるまマークもなんのその、晴れわたった空の下、3月6日(日)に京都東急ホテル「鞍馬」でブロック別懇談会が開かれました。出席者は京都支部22名を含めて総勢37名でした。会長挨拶のあと、出席者紹介、第50回日本女医会総会(名古屋)紹介と続き、懇談の後

に京都支部会を開催致しました。ついで、京都大学呼吸器内科 三嶋理晃教授に「肺にお化粧を(禁煙のススメ) — 喫煙と呼吸器疾患」と題したご講演を頂きました。

懇親会は同ホテル「祇園」で、曳き舟で有名な京都高瀬川のほとりに誕生した京料理「たん熊」の料理を頂きながら、フルートアンサンブルのかたりかける司会とともに「城ヶ島の雨」に昔を思い出し、「川の流れのように」を一緒に唱和した後は、瀬戸内寂聴さんの「和顔施」の絵がデザインしてある西陣つづれ織りの景品があたる福引きを楽しみました。

おみやげは国際女医会と日本女医会のシンボルマークをあしらった京丸団扇と瓢亭の青梅甘煮を手にと、次の「非日常の世界」を楽しみにお開きとしました。

三門の樓上よりの雪の京

松枝



三嶋亭にて



懇親会にて。
フルートアンサンブルのメンバー、福引1等の先生方と

特別寄稿



ニーズ多様化で変貌する 医療人教育への想い

福岡支部 九州大学病院長 水田祥代

昨年の4月に国立大学法人九州大学病院長に就任してあっという間に1年が過ぎました。この1年間、従来からの大学病院の使命である診療、教育、研究に加え、法人化後の新たな使命となった健全な経営にも努力しましたが、中でも私は良き医療人を育てることに力を注いでおります。

私の描く九大病院は、患者さんやそのご家族のみならず私たち医療を提供する側の医療人も納得し、満足する医療を提供することです。これは単に専門性の高い高度先進医療の提供によって病気の方が元気になると言うだけではありません。どんなに頑張っても現在の医療では治らない病気もあります。そのようなたとえ不幸な結果になっても、患者さんやその家族の方々が九大病院で治療を受けたことの診療のプロセスを納得し、その結果を受け入れてもらえるような医療を提供し、同時に、私たち医療人も全力を尽くしたと自分で納得できる後悔しない医療を提供することです。

医療が高度化し専門特化する一方、情報社会の進展を背景に国民の医療に対するニーズも多様化しています。このような時代においてどのような医師を育てるべきでしょうか？ 私は "professional doctor" すなわち、(1) good clinician であること、(2) good researcher であること、(3) good teacher であることの3つの要素を兼ね備えた医師を育てることだと思えます。

"good clinician" とは病気には闘志を、患者さんには愛情を持てる医師であり、単に知識の集積だけでなく、その集積された知識を的確に応用することができ、患者さんに対しては fifty-fifty の立場で接することのできる医師です。また EBM のみではなく、患者さん個々の人生に基づいた医療、Narrative based medicine (NBM) を大切にし、患者さんと話せる医師であることです。

"good researcher" とは、医学の進歩における基礎的研究と共に臨床研究の意義を理解し、医師として探求心を持ち続け、physician-scientist であることができる人です。

"good teacher" とは大学病院の医師のみならず、

すべての医師に必要なことですが、経験のある年長者が若い人に経験をふまえて教えていくことは医療人すべてが心すべきことであり、さらに人に教えることによって自分も学ぶことができます。

これら3つの要素を持ち、社会が求める医療や医師像をきちんと捉え、単に医学知識のみならず、日常生活の中でいかなる場合においても gentle であり、"noblesse oblige" (医師という身分に伴う義務) であることを自覚できるような人を育てたいと努力しております。

一方、医師のみならず医療の多くの領域での専門性が認識されるとともに、異なった領域を1つにしたチーム医療が重要視されています。従って、進歩する医学・医療に対する日々の教育は医師のみならず、看護師や薬剤師、放射線技師、栄養士、臨床工学士、などの医療関係者全体についても重要です。また、プロフェッショナルな医療事務専門職の育成も重要な課題として取り組んでおります。

世界的に評価されうる様な医療人教育を九大病院から発信し、次の世代を担う意欲ある優れた新時代の医療人を鍛え上げて人生の知的冒険の途に導くことは、私たち先輩のすべてが担うべき責任であり、義務であると思えます。

在庫処分

お求め下さい!

税込み価格・送料別

日本女医会 ☎ 03-3498-0571

- **日本女医史追補** 2,500 円
- **日本女医会百年史** 2,000 円
- **世界最初の女性医師**
～エリザベス・ブラックウェルの一生～
1,575 円
- **性教育用ビデオ**
「わたしとあなたの大切なこと」
1,575 円
- **ゆうゆう糖尿病** 600 円
- **国際女医会議**

集合写真	1,000 円
ビデオ	2,000 円
CD	2,000 円



遺伝子組換えヒトエリスロポエチン製剤

薬価基準収載

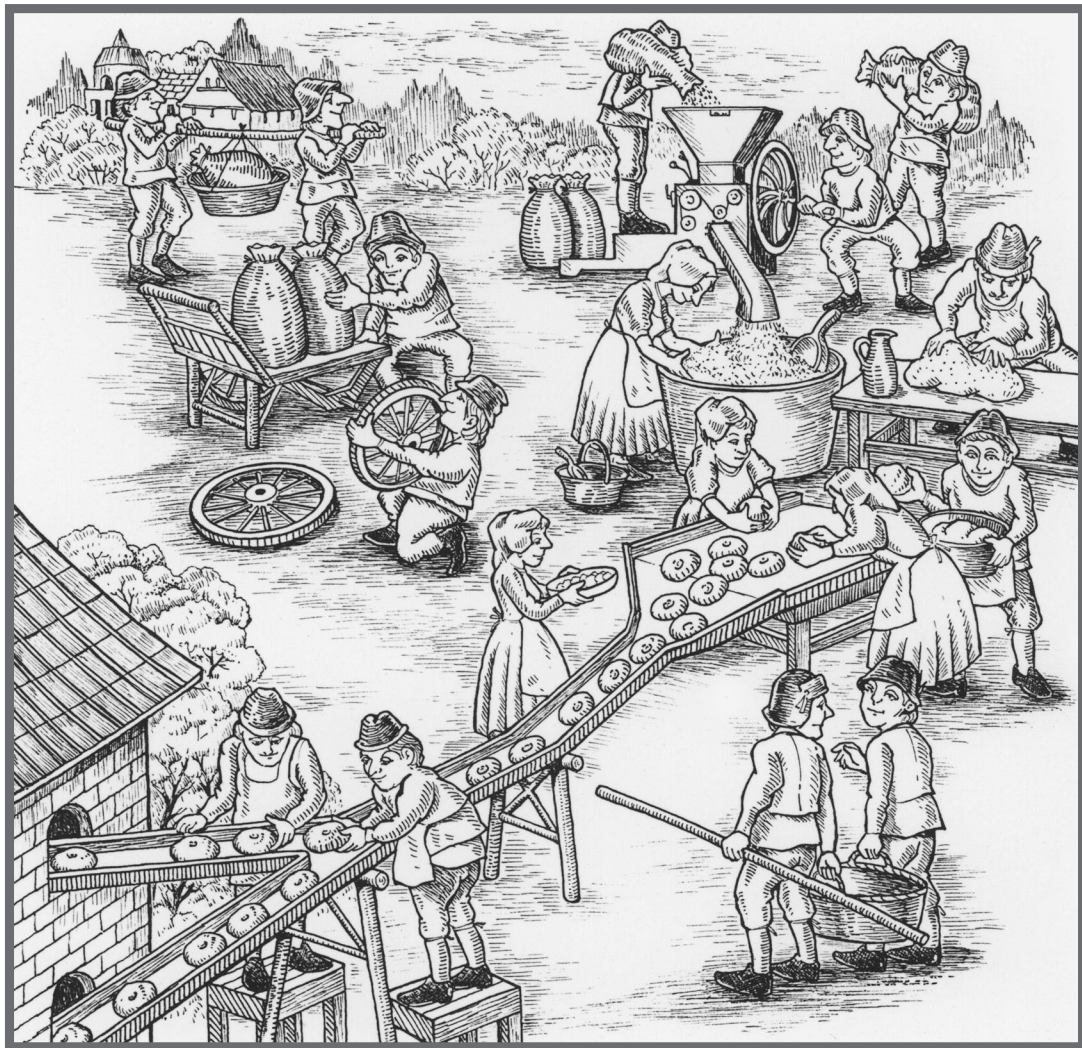
生物由来製品、劇薬、指定医薬品

要指示医薬品：注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

エポジン®	注	シリンジ	750	6000
		アンプル	1500	9000
			3000	12000

EPOGIN®

エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 製剤



※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照下さい。



中外製薬

〔資料請求先〕

〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

Roche ロシュグループ

追悼

小野春生先生を偲ぶ

元日本女医会会長 山崎倫子



本日、突然小野春生先生の悲報に接し、深い悲しみに襲われております。様々な出会いと思い出が尽きることなく浮かんでまいります。当時の国際女医会長・リード女史が国際女医会（戦中、戦後一時中断）に再加入要請のため訪日されました。以来、小野先生は卓越した語学力と円満な性格から日本女医会における牽引力となり、1960年以来会員有志数十名とともに十余回にも及ぶ国際会議に出席されました。

1976年東京で開催された国際女医会議には、国際女医会会長として立派にその重責をはたされました。初めての国際会議で、会員内部でも様々な問題が発生したりしましたが、参加者は内外同伴者を

含めて1200余名にも達し、最後の晩餐会では席が1115名分しか用意できず、一部お断りしたこともありましたが、開会式から講演、社交行事、日本文化の紹介などすべてが滞りなく終了することができました。何れも全会員が一丸となり、心の通った協力と努力によるもので、小野先生も本当に誇らしかったと喜ばれておりました。

ドクター小野は世界中の女医たちからも愛されておりました。

お互いに闘病生活に明け暮れ、疎遠になったままお別れすることになり残念でなりません。

小野春生先生、長い間ご苦労様でした。そしてありがとうございました。小野先生の記憶は、会員一人ひとりの胸に刻まれていることでしょうか。どうぞ安らかに眠りください。（平成17年3月25日）

平成17年3月21日にご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

■支■部■だ■よ■り■

第50回 日本女医会総会
ぜひ愛知県へ

愛知支部 中野慧子

木々の芽も日ごとにふくらみ、日差しにも春の暖かさが感じられるようになりました。

日本女医会100周年記念事業、昨年の国際女医会議東京開催と日本女医会事業の輝かしい成功裡の後の第50回日本女医会総会を愛知県が担当するに当たり、光栄に思うと同時に何か身震いするような気負いとプレッシャーを感じております。

地理的に愛知県は日本のど真ん中、2月17日よりセントレア（中部国際空港）も開港し、アクセスのよさは抜群で日本のどこからも移動しやすくなりました。

また、愛・地球博は、“自然の叡智”、“幸福のかたち”をテーマにしており、今世界中が問題にしている二酸化炭素削減など環境への配慮、自然との共生のありかたを見ていただく良いチャンスです。日本はもとより世界中から愛知県へと集まって下さるこの時期に、担当県になった事はグッドタイミングだったと思います。

また記念講演には皆さんよくご存知の作家、平岩弓枝先生に“日本人の心”と題してご講演を頂くこ

とになっております。

高度先進医療など、私たちの現場は目覚ましい進歩発展を遂げていく中、そこに温かく優しい“こころ”や“配慮”は向けられているのでしょうか？

女性外来、性差医療、ましてや毎日の医療現場などにもさらにきめ細かい対応や心配りが求められております。新聞・テレビの社会面にはどうしてこんなことが、と思われるニュースばかりが目につきます。なにが善でなにが悪と論じる前に、私たちが歩んできた道を振り返ると、大きな反省と、とても大切なものを忘れてきたように思えてなりません。

そんな折、作家の目を通した“日本人の心”についてのお話をお聴きいただけたらと思います。

前夜祭の前には「第59回国連総会第3委員会に出席して」と題する平敷淳子理事の報告、ワークショップ「女医会の現状より未来を考える」と、私たちが今直面している問題点について話し合う機会も設けました。

懇親会では、ワークショップでの追加の話し合いや楽しい語り合いの時間を持っていただければと思っております。

年に一度のこの機会に、実りある時間、楽しいひとときを過ごして下さるよう、愛知県会員一同、大勢の先生方のご参加を心よりお待ち申し上げます。

ご案内

第50回日本女医会総会

皆様におかれましては、ますますご活躍の事と存じます。
 さて、この度第50回日本女医会総会を2005年5月21日(土)～22日(日)、
 ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催するはこびとなりました。
 愛知県では、中部国際空港「セントレア」が2月17日開港し、
 国際博覧会「愛・地球博」(3月25日～9月25日)が開催されています。
 活気ある愛知県での総会開催となりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

開催日：2005年5月21日(土)～5月22日(日) 前夜祭：5月20日(金) 19:00～
 会場：ウエスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3番19号 TEL：052-521-2121

日程：

5月20日 (金)	第59回国連総会 第3委員会に出席して	平敷淳子	17:00～17:30	
	ワークショップ	女医会の現状より未来を考える	17:30～19:00	
	前夜祭	胡弓演奏会 張 濱 (チャン・ビン)	19:00～21:00	参加費 5,000円
5月21日 (土)	評議員会受付		9:30～10:30	
	評議員会		10:30～12:30	
	総会受付		12:00～13:00	
	総会		13:00～15:00	登録料 3,000円
	講演会	平岩弓枝「日本人の心」	15:30～17:00	
	懇親会	ビオラ・ピアノ演奏 タナカ カルテット	18:00～20:00	参加費 15,000円
5月22日 (日)	オプションルツアー	A. 名古屋の伝統産業観光コース		
		B. 「愛・地球博」見学コース		
	ゴルフ	三好カントリークラブ		

会員動静 (2005年3月12日現在)

入会

生方 聖代 (新卒)	埼 玉
大森 芳 (平10年卒)	宮 城
藤本 貴子 (昭55年卒)	栃 木
若海 美智 (平9年卒)	江 東
杉浦むつみ (平2年卒)	文 京
長柄 尚希 (平15年卒)	東 女学内
鈴木由美子 (平3年卒)	愛 知
中西 陽子 (昭58年卒)	愛 知
水谷 陽子 (昭52年卒)	愛 知
松村 美代 (昭49年卒)	大 阪 第6
伊藤千賀子 (昭39年卒)	広 島
貞永 明美 (昭52年卒)	大 分
長柄 光子 (昭49年卒)	鹿 児 島

退会 13名

物 故			
尾川 泰子 (昭31年卒)	茨 城		
南雲 君代 (昭16年卒)	大 田		
瀬戸富喜代 (昭18年卒)	杉 並		
倉島 摂子 (昭19年卒)	中 野		
金井 美津 (昭29年卒)	文 京		
堀尾ふみ子 (昭7年卒)	愛 知		
井筒 初子 (昭11年卒)	大 阪 第8		
山崎 操 (昭8年卒)	高 知		
岸本 頼子 (昭22年卒)	鳥 取		

(((理事会議事録)))

日時:平成16年11月20日(土)
午後3時00分
場所:(社)日本女医会会議室
出席者:橋本、石原、加藤、鹿田、大坪、澁谷、角田、濱田、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康)、山本(續)
(以上14名)
欠席者:内潟、古賀、斎藤、澤口、中山、船越、平敷、山本(蒔)、川田、橋川 (以上10名)

庶務報告
会計報告
各部報告

議題

- 第26回国際女医会議会計・第三報
 - 今後の女医会の活動について
 - その他
- ・職員賞与について

10月理事会議事録を承認

報告事項

- 庶務報告 角田理事
別紙どおり報告、承認される。
- 会計報告 濱田理事
平成16年10月分収支別紙どおり報告、承認される。
- 各部報告

・角田理事より
3月6日京都での「ブロック別懇談会」は会場が京都東急ホテルに変更。案内送付等について京都支部長の石川先生と相談し決定する。
理事が東京都支部連合会の会合に出席した場合、今後は個人の出席として扱う。

【事業部】 山崎(ト)理事
・「市民公開講座」に長野支部と北海道支部から申請がある。日本女医会主催か共催かにより助成金額が違って来るので、事業部が連絡をして決定する。

【渉外部】 松井理事
・10月19日開催の内閣府男女共同参画局主催「アジア太平洋地域経済社会委員会(ESCAP)／北京行動綱領の実施に係るハイレベル政府間会合、スウェーデン家庭生活調査等について聞く会」、11月15日開催の「市川房枝記念会維持員のつどい」に出席の報告

【広報部】 大坪理事
・11月10日に会誌179・180合併号を発送済み。181号に向けて原稿募集中。

【橋本会長より】
・11月24日開催される日本学術会議主催「どこまで進んだ男女共同参画」に多数出席の要請。

協議事項

- 第26回国際女医会議会計・第三報
森川理事より、先月来の会計経過について説明があった。ICSが最終的な収支報告を作成中。
- 今後の女医会の活動について(下記のような意見が出された)
・最近理事会への出席率が悪いと感じる。
・地方での活性化を図るためにもしっかりとした財政的なバックを築き、活発な活動の支援をしなければならない。
・ブロック別懇談会を利用しPRする。
・日本女医会として対外的にPRできるものを持たなければいけない。
・日本医師会が「女性部会」を各県に設置する動きがあり、女医会としても考慮しなければならぬ。
・理事会開催を第四土曜日にと希望があり、スケジュール(案)を作成し次回理事会にて検討
- 大坪理事より
10月20日「日本医師会・女性会員懇談会」出席の報告。女性医師を理事に取り入れようとする意志が全く無く、日本女医会の存在の重要性をますます感じた旨の報告。
・女医会として女性研修医制度など女性問題を提起して存在をアピールするように務める。
- その他
・新潟県中越地震義援金募金について現在の所約140万円の義援金が集まり、先日振り込んだ50万円をひいた分をなるべく早く寄付するようにする。
・来年1月16日開催の「十代の性と健康指導者養成講座 第九回」について参加者を多数募るため、会長名で教育委員会へ手紙を送付する。また各理事がそれぞれ何名ずつかお誘いするなど、参加者増大へ協力要請があった。混合診療について、日本女医会独自の声明文を出す。女医会誌に掲載し会員の意見を聞く。
- 職員賞与
2.6ヶ月とする。

以上

日時:平成16年12月18日(土)
午後3時00分
場所:(社)日本女医会会議室
出席者:橋本、石原、加藤、内潟、鹿田、古賀、澤口、澁谷、角田、濱田、平敷、船越、森川、山崎(ト)、山崎(康)、山本(蒔)、橋川(以上17名)
欠席者:大坪、斎藤、中山、松井、村田、山本(續)、川田 (以上7名)

庶務報告
会計報告
各部報告

議題

- 新潟県中越地震義援金の件
- 役員任期の件
- 平成17年度理事会開催日の件
- 各賞選考委員会開催日の件
- その他

11月理事会議事録を承認

報告事項

- 庶務報告 澁谷理事
別紙どおり報告、承認される。
- 会計報告 船越理事
平成16年11月分収支別紙どおり報告、承認される。
- 各部報告

【事業部】 山崎(ト)理事
・「市民公開講座」、長野支部には日本女医会主催で20万円、北海道支部には日本女医会共催で5万円を助成する旨決定したとの報告。1月23日開催の長野での講演会への理事出席旅費に関し、「旅費内規」を作るべきではないかとの意見が出され、各部代表で協議することに決定。

・「市民公開講座」へ宮城支部からも申請希望があり、来月理事会で検討
【広報部】 山本(蒔)理事
・1月25日発行予定の会誌181号の原稿を収集中

【学術部】 内潟理事
・1月15日に学術講演会を開催

- 【橋本会長より】
- ・国連NGO国内婦人委員会より
(1)映画「ベアテの贈り物」を作成し岩波ホールで上映予定。宣伝の協力依頼
 - (2)平敷理事の国連総会政府代理出席の報告会が1月19日に開催される。
 - (3)例年通り中東女性交流が汎太平洋東南アジア婦人協会主催で行われる。出席の協力
 - (4)2005年7月5日(火)「2005年国連NGO国内婦人委員会総会」が開催される
 - (5)2005年11月5日(火)「2005年NGO女性大会」が開催され、各団体に10万円の寄付依頼がある。来年度の予算に組み入れる。

・以前要望書を提出した「独立行政法人国立女性教育会館と、他の独立行政法人との合併について」は、要望通り見送られた。

【平敷理事より】
国連総会政府代理として第59回国連総会出席の報告

【厚生労働省による立ち入り検査について】
特別な注意はなかったが、特別会計も一覧表にした方が見やすいのでは無いかとのサジェッションがあった。

協議事項

- 新潟県中越地震義援金の件
合計239名より208万5千円の義援金があった。10月27日に新潟県災害対策本部を通じ50万、11月30日に日本赤十字社新潟県支部を通じ100万円を寄付した。会員が新潟地震のために寄付して下さったものではあるが、残金をボランティア基金に繰り入れる事に決定。余剰金処置の判断基準を明記し総会で会員へ説明し、承認をとる。今後災害が発生した時は事業部を中心に行動を興し、お金に関する事は会計部が管理する。
- 役員任期の件
先月の理事会後に小委員会で作成された素案を元に検討する。細則に「会長連続3期(6年)、理事連続5期(10年)、監事連続2期(4年)とし、立候補時の年齢を75歳までとする。」の一文を追加する事を理事会で承認。総会に諮る。
- 平成17年度理事会開催日の件
別紙(案)を参考にし、17年度理事会開催日を検討。5月の総会と12月は第三土曜日、9月は第二土曜日、その他の月は第四土曜日に決定される。
- 各賞選考委員会開催日の件
2月の理事会を19日から26日に変更し、理事会開始前に開催。
- その他
 - 乳房健康研究会より、2005年3月26日(土)、国営昭和記念公園で開催される「第4回ミニウォークアンドランフォープレストケア」の名義だけの後援依頼。承認
 - JCBカードより次号会誌(2005年1月25日発行予定)に送料一部負担(5万円)で「JR・JCBビジネスカードの広告」を同封希望。承認
 - 加藤副会長より。百周年記念事業・国際女医会議を終え、今少し脱力状態の感がある。日本女医会の将来を見据え、次の目標に向け建設的な意見を交わす機会を作るべきとの意見が出された。全員賛成でワークショップの形で来年5月名古屋で開催される「定時総会」の中に組み入れるように愛知支部に依頼することに決定。

以上

日時：平成17年1月15日(土)
午後2時00分

場所：京王プラザホテル

出席者：橋本、石原、加藤、鹿田、大坪、古賀、斎藤、角田、中山、平敷、船越、濱田、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康)、山本(蒔)、山本

(續)、川田 (以上20名)

欠席者：内潟、澤口、澁谷、橋川
(以上4名)

庶務報告
会計報告
各部報告

議題

- 第50回定時総会の件
- 平成17年度事業計画案及び予算案の件
- ブロック別懇談会の件
- スマトラ沖地震の件
- その他

12月理事会議事録を承認

報告事項

- 庶務報告 古賀理事
別紙どおり報告、承認される。
- 会計報告 森川理事
平成16年12月分収支別紙どおり報告、承認される。
- 各部報告

【広報部】 山本(蒔)理事
本日正午より会誌181号校正会議を橋本会長の事務所で開催

【学術部】 斎藤理事
本日理事会に引き続き「平成16年度学術講演会」を「女性外来とメンタルヘルス」と題し、加茂登志子先生を講師に開催。約40名の出席予定。

協議事項

- 第49回定時総会の件
ワークショップに関して、山本(續)理事より会場費、印刷代・送料として15万円位かかるとの報告があり、本部の負担で行うことを改めて承認。ワークショップ提案の趣旨は「女医会のあり方について問題提起する」というものであったが、進行の方法、人選についても今後検討する。
- 平成17年度事業計画案及び予算案の件
2月理事会の一週間前(2月17日まで)までに各部で事業案・予算案を作成し、提出すること
- ブロック別懇談会の件
古賀理事より別紙〈資料〉の説明があった。石川京都支部長の尽力で素晴らしい企画がある。今後、時間の配分等、石川京都支部長と綿密に話し合う。
- スマトラ沖地震の件
 - ナショナルコーディネーター内潟理事より被災国へお見舞いのe-mailは送付済み。
 - 過去の寄付提供状況の説明が平敷理事より、また現在までボランティア基金の内容について森川理事より説

明があった。

- スマトラ沖地震では今すぐ寄付をせず、様子を見て検討する。
- 総会でボランティア基金の現在までの状況を報告する。
- 今後国内国外で災害が発生した時どう対処するか検討する。すぐ出動できる組織の構成を、との意見も出されたが、人力とは限らず必要とされている物資を効果的に提供する等、女医会ができる範囲での協力を考える。
- その他
 - 事業部より、今年度内に支給した「公衆衛生活動への助成」の説明があった(北海道支部へ25万円。長野支部へ20万円)。宮城支部より市民公開講座に対する助成の申請があり(〈資料1〉)検討し、女医会主催で10万円助成が決定。予算額を超えているので、全体の予算でカバーする。
 - 濱田理事より、1月8～10日に女医会共催で開催された北海道支部「思春期教育をめぐるネットワークのあり方」に出席の報告。
 - 斎藤理事より、独立行政法人福祉医療機構からの助成金による「働く女性のための育児環境整備支援事業」研修会を「病児保育の現状と展望」と題し2月20日(日)13時から16時まで「女性と仕事の未来館」で開催する。多数の出席を要請。
 - 明日(1月16日)開催される「十代の性と健康指導者養成講座・第9回」に多数の出席を要請。
 - 大坪理事より、日本医師会・女性会員懇談会が「日本医師会長に『新医師臨床研修制度に産休中の女性医師の身分保証について』厚生労働省への強く働きかけ」の要望書を提出したとの報告。今後このような要望書が提出される時は「女医会」も連名できるように配慮して欲しいとの意見が出された。
 - 第26回国際女医会議最終決算書が出席理事全員へ配布された。
 - 2月理事会は19日から26日に変更され、理事会前に各選考委員会がある。
 - 平敷理事から、まだ決定ではないが国際女医会一会員より「2006年、広島でピースサミット」を開催したい旨の連絡があったとの報告。

以上

訂正とお詫び

第181号15頁の「津軽系図略」中にあります「常陸富紀」は、ただしくは「常陸宮紀」でした。読者のみなさま並びにご執筆の山崎理事はじめ関係者の方々に御迷惑をおかけいたしました。ここに訂正し、お詫びいたします。(広報部)

吉岡弥生賞 推せんについて

平成17年「吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。

締め切り期日は、平成17年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績
 - イ) 医学に貢献した現会員。
 - ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

荻野吟子賞 推せんについて

平成17年「荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いいたします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成17年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動に対する 助成のご案内

平成17年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成17年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社)日本女医会 事業部

第27回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

2. 助成金額

1件30～50万円(3件)

3. 申込手続

- (1) 応募資格
入会継続3年以上経過した

日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2) 助成期間

1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

(3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4) 締切期日

平成17年12月25日必着

(5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の

上、平成18年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

(6) 助成金の贈呈

平成18年5月開催の日本女医会総会の席上。

(7) 受賞者の本会に対する義務

平成19年3月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙3枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。

(8) 送り先

日本女医会

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷2-8-7

☎03-3498-0571

編集後記

今回は女医会主催の「十代の性と健康」指導者養成講座から3つのレポートと、公開講座「十代の性と生と死」を考えるからのレポート、「病児保育の現状と展望」からのレポートなど、現在の状況にマッチした女医会の活動が報告されました。京都でのブロック会議の報告もいかにも京都を想わせる読んで楽しいレポートでした。九大病院院長水田祥代先生の「ニーズ多様化で変貌する医療人教育への想い」に重責を担われたいま、非常に前向きなお考えに触れさせていただきました。(山崎康子)

日本女医会誌

復刊第182号 2005年4月25日発行

編集人 大坪公子

発行人 橋本葉子

制作 あづま堂印刷齋

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail address: office@jmwa.or.jp